

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 内在性レトロウイルスを介した全能性制御機構の解明

2. 研究代表者： 坂下 陽彦（慶應義塾大学 医学部 専任講師）

3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、内在性レトロウイルス (Endogenous Retroviruses; ERVs) の活性化を通じて、受精卵の全能性および初期発生の制御機構の解明を目指すものである。フェーズ1では、全能性期に特異的に発現するマウス ERV-L について胚発生における重要性を明らかにし、メカニズムの理解が大きく進展した点が評価できる。また、下流のカスケードについての予備的なデータも得られており、論文発表も期待できる。フェーズ2では、宿主細胞が全能性から多能性へ分化運命を転換する際にマウス ERV-L を含む ERVs の発現が果たす役割についての検証が計画されており、これに関与する配列及び構造についての解明にも期待したい。また、フェーズ1で得られた成果を基にマウス ERV-L の作用機序の更なる解明を中心によく検討された計画が立てられており、今後の研究の進展に大きく期待する。

以上